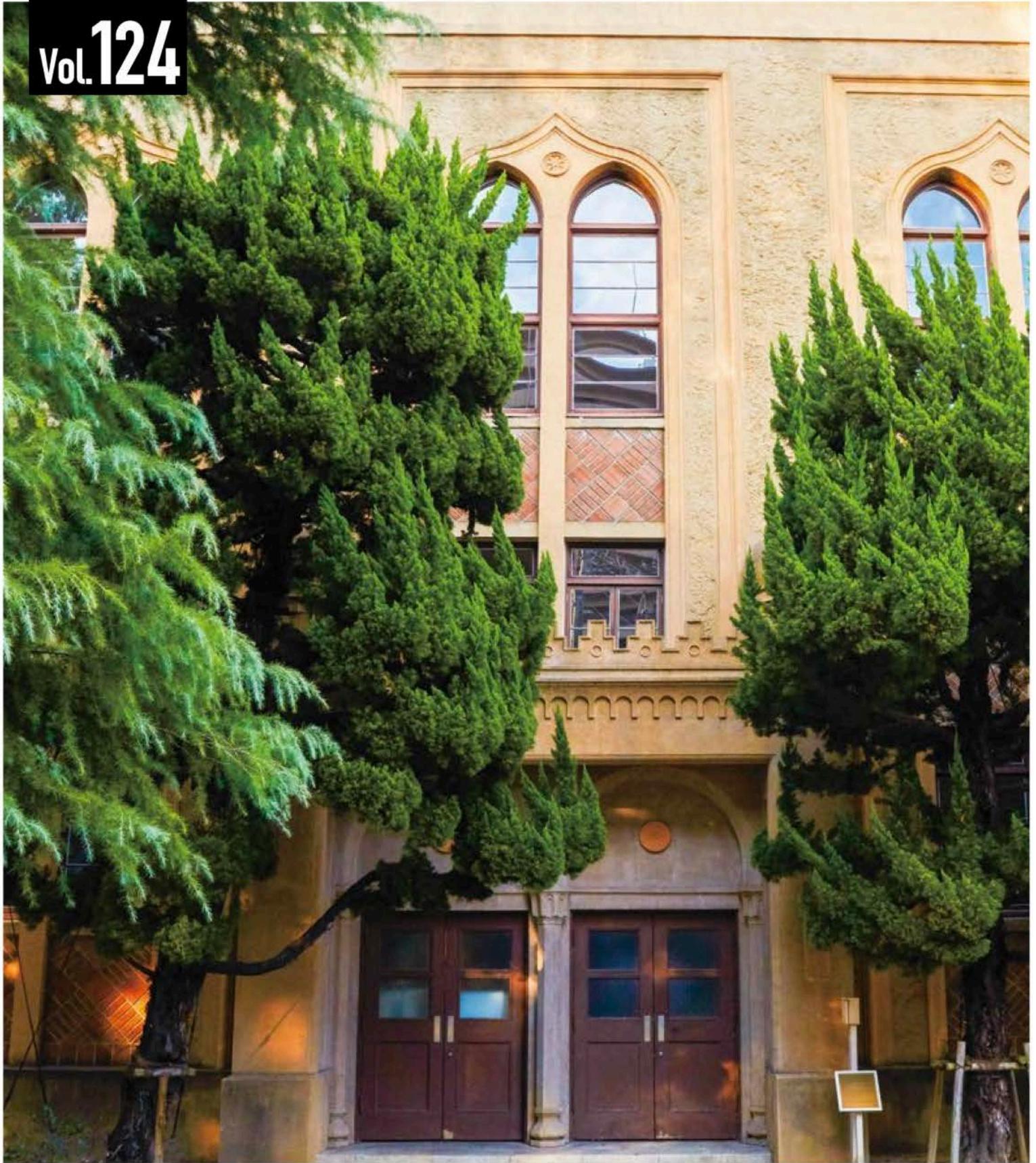


OSAKA
MEDICAL
COLLEGE

大阪医科大学学報

Vol.124



特集

これまでの学風やブランドにとらわれず、
新たなビジョンで次代に求められる人材づくりを

大阪医科大学 / 大槻 勝紀 学長

特集

医療系総合大学のトップランナーとして
新しい薬学教育・薬学研究のモデル構築を

大阪薬科大学 / 政田 幹夫 学長



Contents

- 3 特集
これまでの学風やブランドにとらわれず、
新たなビジョンで次代に
求められる人材づくりを
大阪医科大学／大槻 勝紀 学長
- 5 特集
医療系総合大学のトップランナーとして
新しい薬学教育・薬学研究的モデル構築を
大阪薬科大学／政田 幹夫 学長
- 7 特集
大阪医科薬科大学の誕生に向けて
- 11 OMC TOPICS
01 第53回アメリカ腎臓学会で藤井裕子先生の演題が
"Topic of Interest"に選定
02 第31回腎とフリーラジカル研究会で大学院生藤井裕子先生が奨励賞を受賞
03 千田恵理奈先生が日本口蓋裂学会優秀論文賞、
日本熱傷学会総会・学術集会優秀賞(若手セッション)を受賞
04 河野恵美子先生が内閣府男女共同参画局令和2年度「女性のチャレンジ賞」受賞
05 第16回全体集会
06 ゴールドマン・サックス若手医師長期海外留学支援奨学金基金 研究成果報告会
07 大阪府薬事関係等功労者知事表彰受賞
08 令和2年度(第14回)伊藤奨学金基金授与式
09 令和2年度(第15回)釣奨学金基金授与式
10 令和2年度大阪医科大学解剖慰霊祭
11 令和2年度大阪医科大学実験動物慰霊祭
12 第10回FD&SD「教育・研究会」
13 第8回シミュレーション医療教育学会学術大会
14 国際交流
15 クリスマスの楽しいくじ引き会
16 令和元年度(第4回)ベストティーチャー賞授賞式
17 令和2年度年賀交歓会
18 故四方朋子先生の七回忌法要を執り行いました
19 ゴールドマン・サックス若手医師長期海外留学支援奨学金基金授賞式
- 17 OMC NEWS 18 海外留学
- 19 研究室訪問
理解されにくい精神疾患の解明を遺伝子解析や
脳科学的手法から取り組む
神経精神医学教室 教授 金沢 徹文
- 21 寄付金関連報告 23 競争的資金獲得状況
- 26 病院ボランティアグループ
ふれあい
- 27 高槻中・高だより 28 大阪薬大だより
- 29 チーム大阪医大の
現場力 Vol.18 30 水彩画と私
人事企画研修課
雇用促進チーム「フクシア」

これまでの学風や ブランドにとらわれず、 新たなビジョンで次代に 求められる人材づくりを



大阪医科大学
学長
大槻 勝紀

就任以来、5つの教学改革方針を掲げて、組織改革や国試対策、カリキュラム改革などに取り組んでこられた大槻勝紀学長は、まず明確なビジョンを指し示し、それに向けて学内が一体となることの大切さを実感しており、「これまで築いたものを壊しても、これからの社会が求めているものをしっかり見極め、それに応える人材づくりを」と大阪医科薬科大学への期待を語りました。

本学の特徴である自由闊達な学風と 教室間のハードルの低さが魅力

94年の歴史の中で培われた大阪医科大学の独自性といえますか、大きな特徴をいくつか挙げる事ができます。まず、学生たちの何に縛られることのない自由闊達な学風でしょう。自主的に勉強をするので特別に大学から医師国家試験対策を提供しなくても100%近い合格率を誇ってきました。ところが、3年生から4年生へ、そして5年生から6年生へ進級する時に試験を設けていなかったためか気分が緩み、2016年度の国家試験では合格率が

81.5%まで落ち込んだことがありました。その後は個々の学生に向けてきめ細かい学習支援を実施した結果、新卒合格率は国公私立の合格率を上回り、2019年度は新卒既卒とも100%でした。

そして、教室間のハードルが低いことも本学の特徴といえます。お互いの試料を囲い込むこともなく、目的がはっきりしていれば共同研究を行う環境が整っています。その核となるのが研究支援センターのTR部門です。ここに多くの外科系教室から癌組織試料を集約し、多施設間共同研究が始まっています。

また、「医・看の多職種連携教育」も本学の大きな特色

です。看護学部が開設されたのは約10年前で、当時は医学部と看護学部の両方を持った私立大学は少なく、「医看融合」という言葉を掲げて多職種連携教育に取り組んできました。修学年数が異なることや単位を調整することの難しさはありましたが、新入生の合同合宿で同じテーマについて共に議論し発表する場を設けたほか、「医療人マインド」をはじめ「専門職連携医療論」といった連携科目を各学年で実施しました。それぞれの立場によって同じ症例をみても視点が異なることを認識することが臨床現場のチーム医療でも役立つと考えています。

学長直轄の組織 で着実に進められた 5つの教学改革

そうしたなかで、私が掲げてきた5つの教学改革方針を推進するためにまず取り組んだのが、さまざまなプロジェクトにスピーディーかつ柔軟に対応できるよう、学長直轄の戦略組織を作ることでした。各学部長をはじめ関係部署の責任者で構成された教育戦略会議と研究戦略会議はそれぞれ月1回開催され、文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」への応募などに取り組んできました。結果、同事業については2019年度にタイプ1から4全てに選定されました。医学教育分野別評価、機関別認証評価で高い評価を受け、認定されましたのは教職協働の成果と言えます。

さまざまな改革に取り組むなかで、とりわけ印象に残ったのは、大学に新しい風を吹き込もうと「第3の専門職」といわれるユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター（URA）を学外から招聘したことです。文部科学省に何度か足を運ぶなど苦勞をしましたが、私学では第1号となるURA派遣が実現し、科学研究費補助金（科研費）や私立大学研究ブランディング事業の採択など研究活動の発展に大きな役割を果たしていただきました。

また、大学の本分である研究活動については、科研費の獲得が、研究実績の一つのパロメーターになります。かつては本学研究者の科研費に対する関心は低く、申請件数は多くありませんでした。科研費の採択率の向上こそが、大阪医科大学のブランド力を高めることにつながると考え、積極的に取り組んだ結果、今ではほぼ全員が申請するようになり、採択件数でいえば2011年度の2倍に上昇し、3人に1人は科研費に採択されています。



「実地の医療」で被災地や医療過疎地、 そして地元・高槻市への社会貢献

本学が社会や地域に果たしてきた役割については、もともと「建学の精神」にあるように、「医療機関の使命は医学教育と医学研究であり、またそれらは実地の医療に活かすことで達成される。」という考えのもと、東日本大震災や熊本地震、西日本豪雨などの災害地へDMATやJMATの派遣や、高知県や兵庫県の医療過疎地への医師派遣などを積極的に行っています。

また、地元の高槻市においては、大学病院はこれまで市民病院的な役割を果たしてきましたが、今後は予防医学の観点から、健康寿命の延伸を目指した「たかつきモデル」が2017年私立大学研究ブランディング事業に採択され、市民参加型の活動を展開しています。

具体的には、近年、口腔内の細菌が動脈硬化など循環器の疾患に影響を与えていることがわかったのを受けて、口腔内環境と肺炎や糖尿病、脳梗塞、認知症などの因果関係を市民の皆さんにも参加いただく形で調査・研究しています。最終目標は健康寿命の延伸であり、この研究成果は高槻市民の皆さんへフィードバックされることとなります。

これからの医療は、患者さんを中心に医師、薬剤師、看護師による「チーム医療」としての活動が主流になっていくでしょう。そういった意味で、本学では、何でも診なければならない地域医療に医師・看護師として若い時期から関わっていることは有意義なことだと言えます。

こうした取り組みの中で、大阪医科大学というブランド力を高め、認知されてきました。この春に誕生する大阪医科薬科大学については、今、社会は医療に何を求めているのか、どういう人材を育てようというのかを見据えた上で、ビジョンを明確にさせていただき、次代に求められる医療系総合大学を一から構築していただけたらと思います。



医療系総合大学の トップランナーとして 新しい薬学教育・薬学 研究のモデル構築を



大阪薬科大学
学長
政田 幹夫

110年余りの歴史に甘んじることなく、常に視線は10年、20年先を見つめて先進の薬学教育に取り組んでこられた大阪薬科大学の政田幹夫学長。学生たちに求めてきたのは、医薬品のその向こうにいる人の命への温かな眼差しです。

臨床現場で医薬品のスペシャリストとして貢献できる人材育成を願って、大阪医科大学への期待を伺いました。

めまぐるしく進展する薬学教育において 臨床に強い人材づくりが強みに

この十数年で医薬分業が進み、薬剤師に求められる職能は大きく変化してきました。それとともに、薬学教育をめぐる状況もめまぐるしく進展しており、2006年に6年制が導入され、2018年には薬剤師国家試験受験資格は6年制学部・学科の卒業者のみとなったほか、2015年に改訂された「薬学教育モデル・コアカリキュラム」も、2024年には大きく変えられる予定です。薬学部としては、これからの10年、20年を見据えた薬学教育を実践して

いかなければ時代に乗り遅れることになるのです。

本学は、今から117年前の1904年に大阪道修薬学校として創立された当初から、薬種商や売薬業者、製薬業者など実際に薬に携わって働く人の就学の場として、臨床現場に近いところで薬学教育を実践してきた歴史を持っており、これからも、臨床・医療に秀でた人材の育成を目指したいと考えています。

具体的には、2017年に設立した生涯学習センターでは、急速に進歩する生命科学や医療薬学分野の最新の情報や技術を卒業生にも学んでもらおうと、さまざまなテーマで講座を開催しているほか、あるテーマに対して少人数

で議論を交わし互いに知見を高め合うスモールグループディスカッションを実施しています。また、2018年度の新入学生より、薬剤師国家試験受験資格を得られる6年制に一本化しました。

私は薬学教育で重要なのは、医薬品に対する高度な知識や技術の修得だけでなく、人の命に関わる医療人としての生命倫理観を修得することだと考えています。そのためには、例えば薬学生の臨床実習は現在、6年間でたった22週ですが、将来的に医学生の72週並みに実施する必要があると思っています。もしそうなれば、大阪医科大学との統合により大学病院を持つことは大きな強みになるでしょう。

医薬分業が進むなか 高度な専門知識を活かした貢献を

今日の薬学教育をめぐる急激な変化の背景にあるのは、医療専門職としての薬剤師の位置付けが見直されようとしていることにあります。

海外では、約800年前のローマ帝国で毒殺を恐れたフリードリヒII世が、主治医が処方した薬を別の人間にチェックさせたことから始まったとされる医薬分業が非常に進んでおり、そうしたなかで薬剤師の地位も自ずと高められてきました。アメリカの国勢調査局と労働統計局の調査データ（2019年）からまとめられた働く女性の年収ランキングでは、1位が獣医師、2位が医師、3位が薬剤師とあります。

日本では医師が処方した医薬品を調剤する役割も薬剤師が担っていますが、アメリカではファーマシー・テクニシャンと呼ばれる調剤技師が薬剤師の監督下で処方薬の調剤を行っており、薬剤師は高度な専門知識を有した医療職として、医師と対等に情報や意見を交わし合える立場にあるのです。具体的な例としては、日本で最も大きな大学病院である東京大学医学部附属病院や名古屋大学医学部附属病院は、それぞれベッド数1,100～1,200床を抱えるなかで薬剤師の数は100人足らずでしょう。一方、アメリカのジョンズ・ホプキンス大学医学部の附属病院は、ベッド数はほぼ同じながら薬剤師の数は2倍以上の220人を、その上ファーマシー・テクニシャンを160名擁しています。

日本でも、薬剤師と調剤技師の役割分担を唱える声が出始めていますが、薬剤師が臨床現場で医師と同等の役割を担える日はまだほど遠く、実現したとしても何十年と先かもしれません。しかし少なくともこれからの薬剤師は、医薬品だけを見ているのではなく、その先にいる患者さんの命を感じられる医療人であってほしいのです。

そうしたなかで、2021年4月から大阪薬科大学が大阪医科大学と統合し、大阪医科薬科大学として新たにスタートを切ることには大変意味のある、すばらしいことだと考えています。

「医・薬・看」が連携した教育の実践で 新しい薬学教育のモデルに

アメリカで薬学部のある大学は病院を持っていますが、わが国においては現在、全国に薬学部を持つ大学が80近くあるなかで、国公立大学（18校）以外では医学部・病院も持っている大学は10校ほどでしょう。

「医学」「薬学」「看護学」が連携して教育を実践できる大阪医科薬科大学は稀有な存在であり、まさにわが国における新しい薬学教育・薬学研究のモデルを構築し、医療系総合大学のトップランナーとしての役割が期待されるものです。

薬剤師が医薬品の知見を持っているのは当然のことであり、今後は患者さんや病気に対する知見をも深める必要があります。そのための6年制学部なのです。一人の患者さんを「医・薬・看」の学生チームで診ていく一つの臨床カンファレンスモデルが本学で、統合に先立って今年から実践されるようになりましたが、薬剤師が医師と医薬品による治療方針について意見を交わせるようになるためには、学生時代から医師と話せる環境を作っておくことが大切だと考えます。それが叶う大阪医科薬科大学は、薬学生にとって非常に恵まれた教育の場だといえますし、国の制度に先んじて、次代の薬学に貢献する人材づくりに取り組んでもらえればと考えます。

薬学の存在価値は何なのか、薬学教育のあり方はどうあるべきなのかをしっかりと見据えながら、大阪医科薬科大学が目指すものをきっちりと示すことで、本学ならではの独自性を輝かせることになるのだと期待しています。



ソフト・ハードの両面から 先進の「多職種連携教育」を 一体的に推進

一足早く統合を遂げた学校法人として、実際の大学統合を目指し尽力してきた濱岡純治理事長補佐・副理事長に、新しく誕生する大阪医科薬科大学のビジョンや、目指す人材づくりに向けての具体的な取り組みなどを伺いました。



両大学で立ち上げた分科会で 大学統合の弾みがついて

今春、いよいよ大阪医科薬科大学が誕生します。そもそも2016年の法人統合も、大阪医科大学と大阪薬科大学の統合を視野に入れてのことでした。しかし、2つの大学を一つにするということについては、法人の統合と異なり、両大学が一緒になって前向きに取り組まないと実現が叶うものではありません。

そうしたなか、2018年に大阪医科大学の大槻勝紀学長が大学統合に向けて、「教育」「研究」や「大学院」「入試」といった9つの分科会を立ち上げ、両大学で検討を進めていく取り組みを始めました。それに合わせる形で、法人

も具体的に統合のための準備を進めることになり、まず、大学統合推進委員会を作り、私が委員長に就任しました。両大学による取り組みが、想定していたよりも早く大学統合を実現したのだと思っています。

ところで、統合に向けての実際の手続きは大変なものでした。学部重複もなく、単純に一つにすればいいだけかと考えていましたが、文部科学省では大学の統合が想定されておらず、その手続きの規定がなかったのです。そこで、大阪医科大学に薬学部と大学院薬学研究科を新設するという形で進めるしかありませんでした。歴史と伝統のある大阪薬科大学ですが、学部新設とほぼ同じだけの手間がかかり、2019年度中は申請するための書類作りに追われることになりました。そして昨年3月の申請

を経て、10月に正式に承認されました。

医学部と薬学部、看護学部が揃った私立大学は、総合大学を除いた医療系のみの大学では全国で4校目となります。そのなかで本学の強みは、全くの新設ではなく、医学部が94年、薬学部は117年の歴史と伝統を誇っており、医師、薬剤師、看護師ともに数多くの卒業生が社会で活躍しているという豊富な実績でしょう。

大阪医科大学の歴史ある「学是」と 「建学の精神」を継承して

新大学の「学是」と「建学の精神」については、大阪医科大学のそれを継承しました。というのも、創立者である吉津度先生の創立した時の思いなどが明確に今に伝わり、それが言葉としてきちんと表現されているからです。

「建学の精神」については、今後、多職種の医療人を育成することを踏まえて、最初の「医療機関の使命は」を「医療人育成機関の使命は」と変更していますが、実地の医療すなわち臨床を重視する方針は変わりはありません。

また、学是の「至誠仁術」の至誠とは、孟子の「至誠にして動かざる者は、未だ之れ有らざるなり」に由来しており、誠を尽くせば人は動くということで、人として誠実であることの重要性を説いています。

一方、新大学のビジョンですが、両大学の学長たちとも相談して、大槻学長が進めてこられた「5つの教学改革」をベースとして、「Innovation」「Translational Research」「Globalization」「Social Contribution」はこれを継承し、「Open Mind」については、2つの異なる風土を持つ大学を一つにしたということで情報公開やガバナンスの強化と解釈を広げて「Transparency(透明性の確保)」と捉え直し、さらに医学、薬学、看護学が連携した先進的かつ専門的な教育・研究を推進するという新たな役割「Interprofessional Education(医薬看護連携教育)」を追加して、6つの柱を持つビジョンとしています。

実際的な多職種連携教育・研究によって 臨床現場から期待される人材育成を

大学統合を前に、すでに両大学では、大阪薬科大学の研究に医学部の学生が参加したり、1年次の一部の科目を3学部合同で行ったり、互いの大学祭で交流したりといったことが始められています。新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となりましたが、昨年4月には、3学部の新入生が合同で一泊二日の研修を行う予定でした。統合後は、研究機器やさまざまな設備の共同利用はもちろん、合同で受講できる科目もさらに拡大されることでしょう。

ハード面では、現在、両大学は同じ高槻市内とはいえ離れた場所にありますが、将来的に大阪医科大学の近くに薬学部を移転させることを計画しています。また、ゆくゆくは医療人の範囲を広げて、さらに多職能の人材育成を目指しており、それらが全て一体となって連携教育できる立地環境を整えたいと考えています。

今回の統合は学生たちにとっても、他職種についての知識や理解が深まり、さらに将来にわたっての広い人脈づくりにもつながるものであり、大きなプラスになると考えています。

本学が目指す「臨床に強い医療人育成」という点では、医学部では以前から「クリニカル・クラークシップ」として5～6年次で全ての診療科を体験することや、診療参加型の臨床実習が行われていますが、薬学部や看護学部では臨床実習が十分とは言えません。特に病院薬剤師については、今後その役割がより重視されます。病院を備えた新大学に大きな期待が寄せられるところです。

今日、国が打ち出した「地域包括ケア」に基づいて、まずは地域で医療を完結させようと、かかりつけ医やかかりつけ薬局の役割が高まっています。とりわけ薬剤師には薬を調剤するだけでなく、地域のなかで住民の健康をサポートする機能を担っていくことが求められており、3学部を持つ大学で学ぶことの強みが発揮されることでしょう。

それぞれの大学の卒業生の皆さんには、大学統合して良かったと言ってもらえるように、医療系総合大学として臨床現場から真に求められる医療人の育成に努めてまいります。今後ともお力添えをよろしくお願いいたします。



学校法人大阪医科薬科大学
理事長補佐・副理事長 濱岡 純治

大学統合分科会・全体会議からの報告

法人統合が行われた2016年頃から、理事会では大阪医科大学と大阪薬科大学との大学統合が話題になっていました。なかなか具体的に大学統合の話が進まなかったため、理事会で教務面から大学統合を進めるための会議体を作ること提案し、了承されました。2018年1月に第1回大学統合分科会及び全体会議を開催しました。大学統合をするにしても教務に関わるセンターや委員会の担当教員や職員の間が互いに見えなかったため、まずは9つの分科会（教育、大学院、学生生活支援、研究、入試、規則類、国際交流、転学部制、広報）に分けて、各分科会の方々には定期的に会合してもらい、月に一度全体会議を開催することになりました。全体会議で分科会報告を重ねていくにつれ、各分科会での課題が見えてくるとともに多職種連携教育、新入生合同合宿計画、薬大キャンパスを利用した医学部後期試験会場の使用など多くの成果が得られました。これまでの成果を学報に取りまとめ、両大学のステークホルダーの方々にご報告いたします。ご協力いただきました教職員の皆さまにはこの誌面をお借りし厚く御礼申し上げます。

大阪医科大学
学長 大槻勝紀



WG1 教育

検討した主な内容・成果

- 多職種連携教育プログラム**
既存のカリキュラムを再編して充実させるとともに、新たな授業を新設した。医学部・薬学部・看護学部の3学部が合同で参加し、且つ、低学年から高学年まで順次、段階的にレベルアップして学修していく縦断統合型の新カリキュラムの基礎を構築するための検討が進んでいる（表）。本プログラムは、統合後も一層、充実・拡充を行い整備していくことが必須である。
- 「学生研究プログラム」の実施**
医学部の新カリキュラムにおける、学年縦断統合型の「学生研究プログラム」が大阪薬科大学との協働でスタートした。

今後の課題

① 3学部合同クリニカル・クラークシップ（CC）の実現

「多職種連携教育プログラム」の集大成ともいえる合同CCの実現に向けて検討を進めることが重要課題である。

② **総合教育系（社会科学系、自然科学系、語学系など）**
3学部の到達目標や状況が異なる困難さがあるが、学部横断型カリキュラムの構築に取り組む必要がある。

授業・実習名	多職種連携教育プログラム（予定）（2021年度第1学年より適用）						現状（2020年度以前・統合前）
	医学部		薬学部		看護学部		
	学年	必修	選択	学年	必修	選択	
多職種連携論4—医療安全	6	必修	6	選択	4	必修	多職種融合（連携）ゼミ
多職種連携論—臨床・臨床実習	6		5,6		4		多職種連携地域医療実習（高知県）など
多職種連携論—臨床カンファレンス	5	必修	5		3		医看融合カンファレンス
多職種連携論3—医療倫理	4	必修	3	必修	3	必修	なし
多職種連携論2—医療と専門職	2	必修	2	選択	2	必修	専門職連携医療論
多職種連携論1—医療人マインド	1	必修	1	必修	1	必修	医療人マインド

WG2 大学院

検討した主な内容・成果

- 新大学院学則案を作成した。また各研究科で制度的に差異のある部分（各研究科の目的、教育課程等）を規定するための各研究科規程案を作成。
- 新大学学位規程案を作成した。また各研究科で制度的に差異のある部分（学位申請に必要な書類等）を規定するための各研究科学位規程施行細則案を作成した。
- 大学院運営のための組織として、各研究科とも研究科教授会のもとに大学院委員会を設置する形で関連規程の整備を行った。
- 学位論文の要旨等の公表のため、機関リポジトリを構築し公表することとして準備を進めることとしている。

今後の課題

- 学位記の様式について検討を進めており、間もなく成案を得る予定である。
- 研究科の教育面での相互交流の推進については今後の検討課題である。

WG3 学生生活支援

検討した主な内容・成果

- 懲戒規程の擦り合わせ**
「大阪薬科大学 学生の懲戒に関する規程」の懲戒区分を改正した。
- 学園祭などの学生交流**
2018年度の学園祭では両学生会が相互に学園祭を見学、2019年度は他学園祭を広報しブースを出すなどの交流を進めた。正課外活動は統合後に検討予定である。

③ 新入生外合宿

2019年度は大阪薬科大学の教職員が参加、2020年度は合同実施を計画したが、新型コロナウイルス感染症により中止、2021年度は学内+WEBでのハイブリッド方式を計画している。

④ 保護者懇談会・教育懇談会・父母懇談会

各大学の実情に応じた既存の取り組みを継続する。

今後の課題

- 学生支援関連組織の名称**
大学の組織体制の変更に応じて名称統一の作業を継続する。
- 新入生外合宿**
3学部合同合宿の安全性、経済性、妥当性（内容と学修効果）を検証する。
- 学生自治組織（学生会）の検討**
学生の自主性・主体性を尊重し、大学として適切な助言を継続する。

WG4 研究

検討した主な内容・成果

- 研究組織名の統合について、学長から提案のあった名称変更案を参考に検討を行ったが、組織の根幹に関わる問題であるため、法人の決定に従う。
- 事務組織の統合は、事務分掌規程上の作業内容や研究費管理の作業方法、他課との調整方法が異なっており、現状における単純な統合は難しい。
- 研究に関する指針体系図が整備されているが、細かな取り扱いに異なる部分も多く、体系図の単純な統合は難しい。
- 共同研究機器の利用環境の整備
研究機器等の共同利用は協定書に基づき実施している。統合後も当分の間は、現行のシステムを継続することで様子を見たい。

今後の課題

研究に関する体制や規模が異なること及び地理的な問題、さらには他課との調整が必要な業務も多く、現状における強引な統合は混乱を招くことが危惧される。そのため、当面の対策として、学内補助金の選定及び倫理審査並びにシーズ集の編纂等といった調整可能な業務からすり合わせることで調整を図りたい。

WG6 規則類

検討した主な内容・成果

大学統合に向け、両大学の規則類の整備・統合に関する比較・検討作業を行い、両大学の全ての規則類を教育・研究・管理運営等の種別毎にグルーピング、統合期日を基準とした優先度をつけた「規則類比較表」を作成し、各WGによる詳細な検討と仕分け作業を主導した。並行して、大学統合に必要な文部科学省への設置認可申請には新大学の規則類（学則や教授会規則、その他関連規則）が必要となることより、学則や学部規程をはじめとしたこれらの規則類の策定を最優先事項として取り組んだ。各学部教授会や理事会での審議を経て、文部科学省への申請を行い、10月23日に認可を受けることができた。

今後の課題

各WGが仕分けを実施した規則類について、大学統合までに整備が必要なものを優先しながら、制定案や改正案の策定作業が滞ることのないよう関係WGや事務部門との連携・必要な支援を行いつつ、推進していく。

WG5 入試

検討した主な内容・成果

本WGは、医学部入試に薬学部キャンパスを利用することから協議を開始した。大学案内、進学相談会、広告、Web出願等、既に統一や整理を行った項目がある一方で、各学部固有の事情等に鑑み、慎重な検討を要する項目があることを本WGにおいて確認した。
主な成果は以下のとおり。

- 薬学部キャンパス利用による医学部一般入試（後期）実施**
両大学協働による入試実施の基盤を構築。
- 大学入学共通テスト利用に係る関西大学との共同実施実現**
各々異なっていた共同実施先統一のため関西大学との協定書締結、令和3年度入試からの両大学（新大学）による共通テスト利用を実現。
- 各種業務運営の統一**
統合後を見据え、大学案内、要項等冊子、Web出願システム、進学相談会や受験媒体広告出稿等で3学部の委託先統一、業務効率化とコスト低減を実現。

今後の課題

各学部における独自入試のあり方（運営実施方法）は、引き続き3学部間で検討する必要がある。

WG7 国際交流

検討した主な内容・成果

本WGでは、全学で国際交流を推進するために、国際交流担当部署と学部学生の国際交流について検討を行った。専門性を高める交流を推進する担当部署を各学部に設置すると共に、全学国際戦略を統括する教員組織として「国際戦略室」、教育交流の質を高めるため、学務に事務組織として「国際課」を設置する教職協働を提言した。
国際交流は、学生のニーズ調査をもとに、語学や文化理解を中心とした短期低学年プログラムを全学共同で立ち上げ、各学部の専門性に特化した高学年プログラムを単位互換・認定プログラムに順次移行していくことを確認した。

今後の課題

次世代グローバルリーダー育成のため、全学共同プログラム、専門性に特化したプログラムについて引き続き検討をしていく。また、学生の挑戦を後押しできるよう助成制度を整備する。
教育、研究で国際交流が安心して行えるよう全学組織の構築も引き続きの課題として取り組んでいく。

WG8 転学部制

検討した主な内容・成果

新大学における魅力ある制度策定を目的として、両大学学長・学部長の提案により転学部制度を検討するWGが設置された。以降、医学部・薬学部・看護学部を設置する他大学の例を参考として、複数回にわたり検討を重ね、転学部制度の骨子を検討した。

今後の課題

他大学での運用実績があることから、制度として運用することは不可能ではないと考えられる。一方で、参考とした大学では、第1学年次を同一キャンパスで複数の共通科目を受講するなど、学部間の連関性の高いカリキュラム構成となっているため、新大学で当該制度を運用するにあたっては、各学部のカリキュラム設計を勘案し、制度設計をする必要があると考えられる。
また、カリキュラムの検討と併せて、転学する際の試験制度、収容定員の問題もあることから、この点についても十分に精査していく必要がある。

WG9 広報

検討した主な内容・成果

① 統合後の新大学ホームページ作成にあたり、医大・薬大の現行ホームページの差分確認を行いながら、新大学サイトで必要な内容を精査することを確認。また円滑に新大学ホームページに移行できるよう、薬大ホームページ更新（2019年4月公開）に合わせ、医大ホームページを担当している外部業者への依頼と医大ホームページと同じCMS（コンテンツ・マネジメント・システム）を導入した。

② 2019年6月13日の大学統合に関するプレスリリースについて、法人広報室と連携し原稿を作成。

今後の課題

2021年4月の大学統合に向けて、新大学の魅力を発信できるサイトの構築を進めていく。

05 第16回全体集会

第16回全体集会在、2020年9月29日(火)午後5時から新型コロナウイルス感染症対策を施した上で看護学部講堂で開催され、同時に同学部講義室及び学Ⅰ講堂にオンライン中継し、「本学法人のコロナ禍における経営・運営状況と今後」をテーマとして行われました。

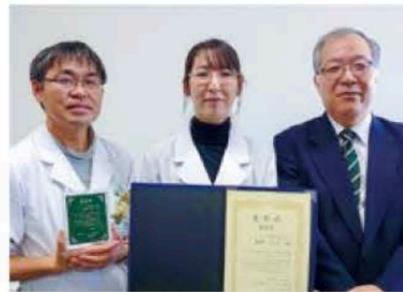
- 1 大学病院と法人の財務への影響 植木 實 理事長
- 2 三学校における授業形態と今後の見通し 大槻 勝紀 学長、政田 幹夫 学長、工藤 剛 校長
- 3 2021年4月の大学統合に関する進捗 濱岡 純治 理事長補佐・副理事長
- 4 大学病院新本館建築及び新管理棟建築計画 南 敏明 病院長、佐野 浩一 副理事長
- 5 関西BNCT共同医療センターの治療開始とPET稼働状況 小野 公二 所長
- 6 今後の対応 植木 實 理事長

約1時間にわたるこれらの重要事項の報告に、会場を埋め尽くした教員・職員・学生らが熱心に耳を傾けていました。



02 第31回腎とフリーラジカル研究会で藤井裕子先生が奨励賞を受賞

当教室の大学院生・藤井裕子医師が、2019年11月16日に東京の羽田エクセルホテル東急で開催された第31回腎とフリーラジカル研究会で、「ピューロマイシン腎症ラットにおけるミトコンドリア選択的抗酸化剤MitoTEMPOの蛋白尿減少効果」という演題で奨励賞を受賞しました。今回の内容は、ネフローゼモデルとして確立されたピューロマイシン腎症ラットにミトコンドリア選択的抗酸化剤を投与し、蛋白尿の減少、血漿、糸球体中の酸化ストレスマーカーの減少を確認するとともに、電子顕微鏡観察で直接的にミトコンドリア障害を評価したもので、ネフローゼ症候群の発症に酸化ストレスに起因したミトコンドリア障害が大きく関与しているということを証明したものです。本研究は、藤井先生の学位研究でもあり、2019年12月24日にPLOS ONEにアクセプトされ、二重の喜びであると思います。今回の受賞を機に一層研究の幅を広げ、研究者として成長するとともに、臨床に打ち込み小児科医としても一層の活躍ができるよう精進してほしいと思います。



04 河野恵美子先生が内閣府男女共同参画局令和2年度「女性のチャレンジ賞」受賞

一般・消化器外科学教室の河野恵美子先生が内閣府男女共同参画局の「女性のチャレンジ賞」を受賞しました。女性消化器外科医を支援する団体「AEGIS-Women」の設立や腹腔鏡手術分野での女性仕様の手術機器の研究・開発など、男女共同参画を推進する活動が認められたものです。

※「女性のチャレンジ賞」
「女性のチャレンジ支援策について」(平成15年4月男女共同参画会議決定)を受けて起業、NPO法人での活動、地域活動等にチャレンジすることで輝いている女性個人、女性団体・グループ及びそのようなチャレンジの支援等を行う個人、団体・グループを顕彰するものです。(内閣府男女共同参画局)



06 ゴールドマン・サックス 若手医師長期海外留学支援奨学基金研究成果報告会

2020年10月14日、2020年度ゴールドマン・サックス若手医師長期海外留学支援奨学基金研究成果報告会を歴史資料館にて開催しました。初めに植木實理事長・本基金運営委員長から本基金の設立趣旨と歴代受賞者についてお話があり、コロナ禍のためご欠席された寄付者のゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社代表取締役社長桐谷重毅様の挨拶文が佐野浩一副理事長の代読にて披露された後、大槻勝紀学長・本基金審査委員長から報告者の研究内容について紹介がありました。続いて、2020年3月に留学を終えて帰国された泌尿器科学教室の吉川勇希助教(准)、同教室の前之園良一助教(准)及び口腔外科学教室の山本佳代子助教から海外留学の研究成果の報告と、出席者との活発な質疑応答が行われました。最後に所属長の東治人教授、植野高章教授から寄付者への感謝の言葉が述べられ、南敏明病院長の挨拶にて閉会となりました。



07 大阪府薬事関係等功労者知事表彰受賞

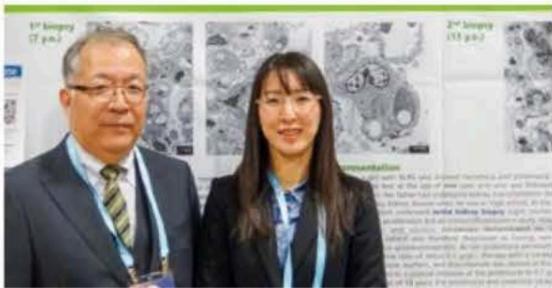
このたび、令和2年度大阪府薬事関係等功労者知事表彰を受賞いたしました。この賞は、永年にわたって薬事衛生業務に従事し、府民の健康増進に寄与した者および団体に対して贈られるもので、当院薬剤部の鈴木薫主幹と揃って受賞いたしましたことは、個人的にも薬剤部にとっても誠に光栄であり、身に余る思いです。

近年、薬剤師に求められる役割が、「くすり」中心の対物業務から「患者さん、医療スタッフ」を対象とする対人業務へ大きくシフトしてきました。その中で当院薬剤部では、チーム医療の要として「薬あるところに薬剤師あり」を実践することをスローガンにし、いち早く、院内全域に渡る横断的な活動を展開してきました。その結果、様々な場面で薬剤の安全管理・適正使用の風土が芽生え、定着してきたように思います。この先も、受け身ではなく能動的に、まずは現状の最重要課題である感染対策・安全対策に取り組み、受賞に恥じないよう邁進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。(薬剤部 西原雅美)



01 第53回アメリカ腎臓学会で藤井裕子先生の演題が"Topic of Interest"に選定

当教室の大学院生・藤井裕子医師が、2019年11月7-9日にWashington DCで開催された第53回Annual Meeting of American Society of Nephrology (Kidney Week 2019)で発表した「Identification of X-Linked Alport Syndrome by Genetic Testing in a Girl Who Had Remained Undiagnosed After Two Kidney Biopsies Within a 10-Year Period」という演題がTopic of Interestに選定されました。このTopic of Interestは、アメリカ腎臓学会の演題としてアクセプトされた演題の中から、50-100演題の一つ、臨床的に非常に興味深い演題が選定され、アメリカ腎臓学会のSTARSプログラムの一環として、学生やレジデントと演題についてのディスカッションを行うものです。これからも一症例一症例を大切に、より多くの患者さんに貢献できるよう、研鑽を積んでほしいと思います。



03 千田恵理奈先生が日本口蓋裂学会優秀論文賞、日本熱傷学会総会・学術集会優秀賞(若手セッション)を受賞

日本口蓋裂学会誌において「Bifid nose に対し鼻形成術を行った3症例の長期経過」に関する論文を報告し、日本口蓋裂学会優秀論文賞を頂きました。本論文では、顔面正中裂という稀な疾患に伴う症状であるbifid noseを呈した3症例を経験し、新しい分類法を考案し、長期経過をフォローする貴重な機会を得ましたので、報告いたしました。

また、2020年9月2-3日に開催された第46回日本熱傷学会総会・学術集会において、「小児熱傷受傷後の発熱と感染有無に関する検討」について発表し、優秀賞(若手セッション)を頂きました。小児熱傷受傷後は軽度な発熱を多く認めますが、創部感染などの合併を疑うべきか判断に迷う場合も多いです。このため、54例の統計学的分析を行い、38.5℃以下の体温上昇は熱傷のみで生じうる可能性があることを報告しました。

形成外科領域は未だエビデンスが蓄積されていない領域も多く、研究課題は枚挙にいとまがなく、非常に面白い分野だと考えています。今後も更に研鑽を重ねたいと考えております。



08 令和2年度(第14回)伊藤奨学基金授与式

2020年10月20日、令和2年度(第14回)伊藤奨学基金授与式が開催されました。まず大槻勝紀学長より本基金の原資を遺贈された伊藤龍三先生と本基金設立の経緯についてお話がありました。続いて受給者に対し、祝辞を述べられ、出席した2名に賞状と目録が授与されました。賞状と目録を受け取った受給者は、伊藤奨学基金受給への謝辞と今後の抱負を述べられました。最後は学長と受給者、ご列席くださった伊藤奨学基金運営委員で記念撮影を行い、和やかな雰囲気の中、閉式となりました。

令和2年度 伊藤奨学基金受給者より一言

- 第1年生 竹中 優
「奨学金で授業を受けていることを忘れずに、より良い医師になるために努力します。」
- 第3年生 平井 咲帆
「より良い医療を提供できるように、豊富な知識を身に付け、様々な経験に努力します。」
- 第5年生 森田 潤
「制限された実習を送る日々ですが、奨学生として恥じぬようより一層励んで参ります。」



09 令和2年度(第15回)鉤奨学基金授与式

2020年10月26日、令和2年度(第15回)鉤奨学基金授与式が開催されました。まず大槻学長より、本基金設立者であり本学名誉教授の鉤スミ子先生についてのお話と、本基金設立の経緯についての説明がありました。続いて受給者に対し、祝辞が述べられ、賞状と目録が授与されました。次に受給者4名、それぞれより謝辞が述べられました。最後に出席者全員で記念撮影を行い、閉会となりました。

令和2年度 鉤奨学基金受給者より一言

- 奨学金
 - 第1年生 加地 実桜子
「勉学に対して高いモチベーションを持って、充実した学生生活を送っています。」
 - 第6年生 山田 紗綾
「賜りました奨学金は、国家試験の勉強の教材費に充て、より一層精進したいと思っております。」
- 研究助成金
 - 生理学教室 講師 佐々木 真理
「現在もっているアイデアを実現するために必要な物品購入に充てる予定です。」
 - 内科学II教室 助教 大濱 日出子
「GAS5遺伝子を用いたマクロファージ療法の研究に必要な試薬購入に役立てたいです。」



12 第10回FD&SD「教育・研究集会」

2020年12月9日午後4時から、第10回FD&SD「教育・研究集会」を開催いたしました。今回は新型コロナウイルス感染症拡大対策として、新講義実習棟P101講義室・P301・302・学I講堂・学II講堂・看護学部講堂を同時中継し、学生向けにZoomを用いたオンライン配信も実施し、教職員・学生を含め、総勢188名の参加がありました。大槻勝紀学長から「総括：教学改革と成果」と題して任期中の総括及び教学改革の成果について説明がありました。続いて、中野隆史医学教育センター副センター長及び3年生の任 幸輝さんから、医学部の新カリキュラムから導入されている「学生研究」について、河田了学長補佐から「Withコロナ、Postコロナにおける大学教育」について、佐浦隆一医学学生生活支援センター長から新型コロナ禍での「学生生活支援」について説明がありました。終了後に実施したアンケートにおいて多数の意見が寄せられ、本学の教学改革の状況について、全学的な共有が図られました。本集会は、大槻学長就任以降、教学改革の推進状況について全学的に共有する重要な場と位置付けて実施して参りましたが、大槻学長任期中及び大阪医科大学として最後の本集会でしたが、盛会のうちに終了いたしました。



10 令和2年度大阪医科大学解剖慰霊祭

2020年10月17日午後2時から、高槻現代劇場大ホールにおいて、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底して、本年度解剖慰霊祭を執り行いました。大槻勝紀学長から医学教育の発展に貢献、寄与していただいた方々への謝意と哀悼の意が捧げられました。導師による読経、解剖学教室の近藤洋一教授、医学部生及び看護学部生代表による祭文奉読の後、来賓のご遺族代表、行政・医療機関関係者、さつき会代表、また本学教職員、医学部・看護学部生等の参列者全員が、今日まで系統解剖、病理解剖で医学教育のために献身いただきました御霊に深謝の意を込めて、焼香を行いました。毎年10月第3土曜日に解剖慰霊祭を行いますので、学生及び教職員皆様にはご参列をお願いします。



11 令和2年度大阪医科大学実験動物慰霊祭

2020年12月5日(土)午後1時から本学講義実習棟第1講義室にて令和2年度実験動物慰霊祭が行われました。当日は、奥英弘実験動物部門長による祭文奉読の後、南敏明病院長、看護学部長代行として津田泰宏教授、小野富三人研究支援センター長、近藤洋一動物実験委員会委員長による代表焼香を行いました。その後、約50名の参列者全員が焼香を行い、医学・医療の発展と研究に貢献・寄与した多数の実験動物の御霊に謹んで感謝と敬意の念を表し、実験動物の冥福を祈りました。本学の実験動物慰霊祭は毎年12月第1土曜日の午後1時から行っております。本学教職員の皆様には、是非、足をお運びいただき、尊い命に感謝の祈りを捧げていただければと思います。



13 第8回シミュレーション医療教育学会学術大会

2020年10月24日に「第8回シミュレーション医療教育学会学術大会」を当院医学教育センターとの共催で行いました。学会テーマは「シームレス多職種連携教育のためのシミュレーション～Society5.0における医療者教育の探求～」を掲げました。新型コロナウイルス対策として、Hybrid形式での開催としました。一般演題では本学で導入された学生研究の成果発表もみられました。また4年生の廣砂賢祐君を中心とした「遠隔学生ディスカッション」では全国の医学生が新型コロナ下での医学教育に関して話し合いました。シンポジウムは、多職種連携教育推進のために情報科学やカリキュラム作成の観点からもご発表いただきました。さらに、情報駆動型社会における「AIとシミュレーション」に関するパネルディスカッションも行いました。現地と遠隔を併せて約130名の参加をいただき盛会に終了できました。本学会開催が本学における医学教育活性化に少しでも寄与できれば幸いです。(大会長：駒澤伸泰)



学生セッション



遠隔学生ディスカッションの様子



17 令和2年度年賀交歓会

日時：2021年1月4日(月)午後1時
場所：新講義実習棟 P101

新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、規模を縮小し、感染防止対策を徹底した上で開催しました。最初に植木實理事長から、本法人の道標（みちしるべ）と題し、様々な動向や方向性について「5つの慶びと3つの近未来」のキーワードに沿って述べられた後、本年のスローガンは「Society5.0の実践」、「堅実な経営」、「厳重なコロナ対策」とすることが発表されました。これらのスローガンのもと、全事業を推進し、教育・研究・医療を発展させていく、また、社会の公器である本法人の教職員には、今後進めるSDGsの理解をお願いしつつ、SSDによる更なる成長と活躍を期待する旨のお話がありました。続いて、濱岡純治理事長補佐・副理事長から、多くの人々のご協力の賜物で4月に大学統合が実現すること、新大学の更なる発展に向けて尽力していただきたいこと、また、様々な事業を推進するために法人の収益力強化が欠かせないことが述べられ、教職員・法人にとって素晴らしい年になることを祈念する旨のご挨拶がありました。また、佐野浩一副理事長から、年始の祝辞と年末年始のコロナ対応への謝辞に加え、インフルエンザと比較にならぬほど迅速に開発されたCOVID-19ワクチンを希望の光として、今しばらく踏ん張って、マスクと手洗いを携え、新しい生活・教育・研究・医療を作る一年としたい旨のご挨拶がありました。



最後に、大槻勝紀学長から、これまでの6年間における教学の成果にふれ、4月から新しいスタートを迎えるにあたり、新学長のもとで大学のブランド力を向上させていただきたいこと、また、教職員のご健康とご健勝を祈念する旨のご挨拶がありました。

18 故四方朋子先生の七回忌法要を執り行いました

故四方朋子先生がご逝去されまして、早や七年の歳月が過ぎました。ご高承のとおり、故四方先生は、本学で医学を学ぶ後輩の学生教育に役立てて欲しいというご遺志にもとづき、ご遺産を母校である本学へご寄贈いただきました。ご寄付により四方朋子先生のお名前を冠した医学部学生のための永久的奨学金制度「四方朋子記念奨学金」を設置し、一部は学生の教育研究整備に使わせていただいております。本学法人はこの母校愛に満ちた御篤志に対し、特別校賞の称号を贈呈し、銘板にご芳名をしるし末永く顕彰するとともに、感謝の意を表するため、市民の皆様にも開放している緑豊かな大学の憩いの広場を通称「四方広場」と命名し、記念の石碑を建立して大切にしております。故四方先生の七回忌法要は、当初、御命日に近い昨春にこの四方広場にて執り行う準備を進めておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発令を受け、ご親族のご理解も得た上で延期しておりました。ようやく第二波が落ち着いた昨秋の2020年10月30日(金)に、ご親族様、四方先生の同期生の島田眞久元学長、内藤啓三先生、大澤直先生ご出席のもと、本学菩提寺である光松寺・靈群ご住職のお世話になり、滞りなく執り行いました。昨今の状況により、粗餐を差し上げて故人を偲ぶことは叶いませんでしたが、法要後は別館・歴史資料館に移り、植木實理事長のご挨拶の後、ご住職の経験を交えた親しみやすい法話を拝聴し、その後は故人との思い出話が弾んで終始和やかな法要となりました。



改めて、ここに故四方朋子先生の御冥福をお祈り申し上げ、御遺志に対し深く感謝申し上げます。

15 クリスマスの楽しくじ引き会

LDセンターでは例年クリスマスの季節に「クリスマス会」を催し、小児ボランティア部の学生さん、学内・学外の有志の方々のご協力を得て、センターに通所しているお子さんやご家族と楽しい集いの時間を持っています。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努めるなか、会の開催は難しいとの判断をしました。ただ、お子さんの通う園・学校では6月の緊急事態宣言解除から秋にかけて、修学旅行や遠足・運動会を始めとするいくつもの行事が制限されました。マスクをつけて指導・訓練に通う子どもたちのため、コロナ禍でも実現可能な新たなスタイルを模索し、昨年は「クリスマスの楽しくじ引き会」を実施しました。12月の指導・訓練の後には、触れずに指さして選んだ「くじ」を手に、受付でお菓子・おもちゃと引き換える子どもたちの笑顔がはじけました。大変な状況下でも「心に少しのゆとりと楽しみを…」の大切さをかみしめた年の瀬でした。

※顧問の竹田契一先生より、昨年もおもちゃの寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。



16 令和元年度(第4回) ベストティーチャー賞授賞式

令和元年度(第4回) ベストティーチャー賞授賞式を令和2年12月1日(火)、歴史資料館3階において開催しました。学生による授業評価アンケートにて選出された12名の教員に、大槻勝紀学長から表彰状が授与され、受賞者を代表して鈴木富雄特任教授と佐々木綾子教授が謝辞を述べました。

所属	職名	氏名
地域総合医療科学寄附講座	特任教授	鈴木 富雄
解剖学教室	准教授	柴田 雅朗
微生物学教室	教授	中野 隆史
脳神経外科学教室	診療准教授	古瀬 元雅
内科学Ⅰ教室	講師	池田 宗一郎
●看護学部		
基礎看護学領域	講師	二宮 早苗
老年看護学領域	講師	樋上 容子
慢性期成人看護学領域	助教	柴田 佳純
公衆衛生看護学領域	准教授	仲下 祐美子
●医学研究科		
医療統計室	准教授	伊藤 ゆり
●看護学研究科		
看護学研究科	教授	鈴木 久美
看護学研究科	教授	佐々木 綾子



14 国際交流

今年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、残念ながら対面での国際交流が全面的に中止となりました。混迷の中、コロナ禍、ポストコロナの新しい形の国際交流を見据えた活動を展開しました。

1 Clinical Elective ガイドブック英語版作成

受入れ留学生に開講している「Clinical Elective」の研修内容を見直し、本学医学部生の「臨床実習」と一緒に1科2週間の研修を行うようプログラムを刷新し、国立台湾大学との単位互換を今年度よりスタートしました。短期間の研修を実りあるものにするため、事前学習から事後学習までを含めたClinical Electiveガイドブック英語版を作成しました。

2 オンライン交流

新型コロナウイルス感染症により各国との往来制限が長期化する中、オンラインでの国際交流は感染症等の障壁に影響されない新しい交流方式として今後、益々重要になっていきます。本学でも新しい試みとしてオンライン交流をスタートさせました。

(1) 研究でのオンライン交流

科学技術振興機構（JST）のさくらサイエンスプランオンライン交流に本学の「ゲノム解析による疾患予防共同研究プログラム」が採択されました。昨年度の採択プログラムを深化させたオンラインプログラムで、国立台湾大学からの研究発表と本学からの小型シーケンサーを使った新型コロナウイルスの解析講義を3月5日に行います。今後は教育だけでなく、研究での国際交流の充実も図っていきます。

(2) 教育でのオンライン交流

看護学部では、ミネソタ州立大学マンケート校を基幹校としたWeb International Module 科目「Experiential International Module (体験型学習インターナショナルモジュール)」に2021年度後期から参加します。アメリカ、ヨーロッパ、オセアニア、アフリカといった多様な国の学生と身近な問題をテーマとして、ディスカッションをもとに、異なる文化や他者理解の学びを深めます。

3 コロナ禍、ポストコロナを見据えた国際化推進にむけた講演会の開催

12月15日、WHO西太平洋地域事務局管理官（法務・危機管理担当）で本学客員教授の野崎慎仁郎先生をお迎えして、オンライン講演会を開催しました。新型コロナウイルス感染症との闘いはまだ道半ばにあります。先行きが見えない中で、正しい状況把握とその上に成り立つ予防、治療、それにつながる研究について、国際的な視点で理解を深めることが医療従事者にとって必要不可欠であることを再認識しました。

世界保健機関（WHO）西太平洋地域の COVID-19の状況とWHOの対応

令和2年12月15日

大阪医科大学 客員教授 野崎慎仁郎

WHO西太平洋地域事務局 事務局長室管理官 (危機管理担当)



19 ゴールドマン・サックス若手医師長期海外留学支援奨学基金授賞式

1月22日、2020年度ゴールドマン・サックス若手医師長期海外留学支援奨学基金授賞式を特別応接室にて開催しました。初めに、神経精神医学教室の西澤由貴助教(准)に賞状が授与され、植木實理事長・本基金運営委員長から本基金の設立趣旨と歴代受賞者についてお話しがあり、大槻勝紀学長・本基金審査委員長が選考の経緯を報告されました。続いて、コロナ禍のためオンラインでご出席された寄付者であり本基金運営委員・審査委員のゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社代表取締役社長の桐谷重毅様から祝辞を頂き、留学先の米国は日本よりもかなり厳しい状況だが、苦しい中で努力し続けることが大きな成長に繋がると述べられました。最後に受賞者から謝辞と抱負が、所属長の金沢徹文教授から寄付者への感謝の意が述べられ、佐野浩一副理事長・運営委員の挨拶にて閉会となりました。

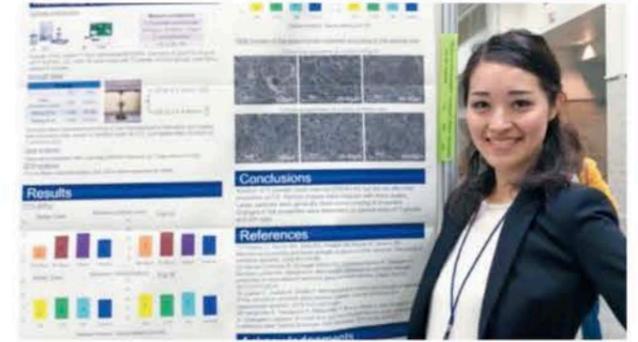


桐谷社長

海外留学 Study Abroad

O Canada -
The University
of British Columbia
への留学報告

口腔外科学教室
山本 佳代子 助教



2019 IADR / Vancouverでポスター発表

2018年5月から2020年3月までThe University of British Columbia(UBC), Faculty of Dentistry, Department of Biological & Medical Sciencesで2年間研究留学をさせて頂きました。

私の所属した研究室の主任教授であるProf. Ricardo M. CarvalhoはBiomaterialの世界的権威で数多くの新規Adhesive materialの開発に関わっておられます。私自身は博士課程の研究テーマが「新規骨再生マテリアルの開発」であったものの、マテリアルそのものというよりラットを用いたin vivoの実験に比重を置いていたため、自分が実験で実際使用するマテリアルがどのように検討・開発されているのかを一流の研究室で身をもって学ぶことができ、非常に有意義な経験となりました。

幼い頃からキャビンアテンダントになることを夢見ていた私は、「大人になったら絶対に海外で生活する!」という野望を持っていました。記念受験だったはずの大学受験に合格し晴れて大学生となった後も「どうにかして海外で生活したい」と考えていました。初期研修後の進路を探して大阪医科大学・植野高章教授の元を訪れた時も「海外に行かせて頂ける入局先を探しています」と、入局希望者のくせに教授を相手に破天荒な条件を出しましたが、「海外志向を持つことは素晴らしい」と広い心で受け入れて頂きました。その後、様々なご縁を繋ぎに繋いで頂き、幸運なことに大学院在学中に憧れのUBCに留学することになりました。

カナダは“移民の国”と言われているだけあり様々なバックグラウンドを持った人たちが構成された国です。そのため他者に対してとても親切で、困っている人に手を



人生の恩師・Dr Ian Matthewとクリニックにて

研究室のメンバーとミーティング

差し伸べる人がとても多いです。私は留学先に日本人が全くおらず、知り合いもいなかったため留学するとなると心細く不安でしたが、周りの人々のたくさんの助けがあり居心地よく過ごすことが出来ました。研究室でも一から実験を組み立てなければならず、日本でも経験したことのない研究内容に最初は頭を抱えていましたが、同僚たちが根気強く教えてくれたために充実した研究生活となりました。また研究に行き詰まっていた時期にUBCの口腔外科の責任者であるDr. Ian Matthewに話し掛けてみたところ、臨床実習のお手伝いをさせて頂くことになりました。日本の大学とはまた一味違う歯学教育を目の当たりに出来、何物にも代えがたい経験になりました。カナダでの友人・同僚は自分にとっての第2の家族です。

もちろん楽しいことばかりではなく、日本とは違う時間の流れ方、少し進んだと思ったら大きく後戻りする実験成果、余裕のない経済状況等、苦勞することもたくさんありました。その苦勞を乗り越えた今、「何事も最後には何とかなる!」と良い意味で“適当”に物事に対応する柔軟性や余裕を持てるようになったと思います。また、「自分がしてもらって嬉しかったことは、積極的に他の人に対してする」という当たり前だけ人として大切なことを、改めて身をもって認識できました。そのため私がカナダで受けて嬉しかったコミュニケーションを帰国してから周りの人に対して実践するように心がけています。

今、医療界に限らず留学希望の若者が減少しているとニュースになっています。確かに手続きは面倒くさいし、お金は掛かるし、言葉も文化も違って大変なことはたくさんあります。留学したからといって私の人生は大きく変わっていません。ただ、もし留学しなかったら、私の人生は今ほど充実したものでなかったら断言できます。日常生活では得られない経験は財産だと思うのです。若いうちの苦勞は買ってでもしなさい、という言葉もありますが、もし機会があるのであれば、是非色々な方に海外留学を経験してみたいです。

※O Canada ← カナダ国歌を表します

OMC NEWS

法人シンボルマークとロゴタイプが決定

法人シンボルマーク



ロゴタイプ

学校法人 大阪医科薬科大学
大阪医科薬科大学
大阪医科薬科大学病院

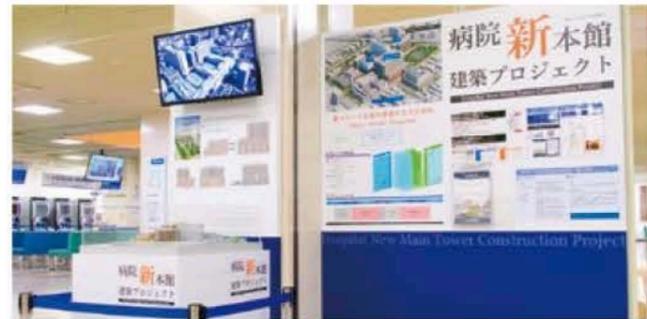
大学シンボルカラー



OMC NEWS

病院新本館建築 模型を展示しました

病院の1階外来フロアに建築模型を展示しました。展示コーナーでは建築コンセプト動画も上映しています。



動画はこちらからも
ご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=TfWdKB9ExW0&t=36s>





理解されにくい精神疾患の 解明を遺伝子解析や 脳科学的手法から取り組む

かつては特別な病気のように思われた精神疾患も、今日では認知症や発達障害、うつ病などが私たちの身近な病気としてクローズアップされることが増え、精神医学に対する理解も深まってきました。大阪医科大学における神経精神医学研究の歴史は古く、昭和28年に満田久敏教授が創設された神経精神医学教室は、3代目の米田博教授の後を継いだ金沢徹文教授で4代目となります。「真っ当な臨床能力を持った精神科専門医を育てたい」と語る金沢教授に、精神医学研究の意義や役割について伺いました。

今回の訪問先

神経精神医学教室

教授 金沢 徹文



—— 主な研究内容を教えてください。

現在は、統合失調症や双極性障害(躁うつ病)、非定型精神病、性同一性障害といった病態を最新の遺伝子解析手法によって解明しようという研究や、脳科学手法を応用して精神疾患の治療に役立てようという研究などを行っています。

精神疾患の原因として遺伝子が関

与していることはすでにも言われてきたことですが、その遺伝子は何なのかははっきりしていません。その解明に向けて、アメリカのカリフォルニア大学サンディエゴ校やオーストラリアのメルボルン大学でも研究を重ねてきました。

最近は薬剤部の先生たちと、大規模データの解析を通して統合失調症治療薬や向精神薬などの薬剤の使い方や難治性統合失調症に使われるクロザピンという薬剤のナショナルデータベースの解析なども研究しています。

—— 今日における神経精神医学の役割は何でしょうか。

偉そうに聞こえるかもしれませんが医学というのは最初、感染症との戦いに始まり、次にガンとの戦いに移り

ました。そして今は精神疾患との戦いに移ってきていると個人的に思っています。認知症や発達障害、うつ病など、誰もが罹患する可能性のある病気について解明し、社会から隔絶するのではなく接点をもたらししていくことが、精神科医の仕事だと考えます。「なぜ、精神科を選んだの?」とよく聞かれましたが、この数年で我々は非常に必要とされているということを実感しますね。

—— 「真っ当な臨床能力を持った精神科専門医を育成したい」というのは?

大阪医科大学の神経精神医学教室は代々、臨床能力がピカイチという評価を多くの他大学の先生方からいただいています。今はまだ米田教授の遺産に拠るところが多いですが、私もその伝統を汲むものとして、最新の知識や技能を磨いているのと同時に、患者さんに対して真摯な姿勢で向き合う臨床医でありたいと思っています。また、後進にもそのように指導しています。

私がよく例えるのは、臨床と研究の違いは虫の目と鳥の目の違いだということです。臨床医は目の前の患者さんが困っている幻聴やうつといった症状に、一人ひとりの患者さんに細やかな配慮をしながら、それぞれ足の形にあった靴を作っていく作業をしていくことになります。一方で、研究は大量生産する靴と同じで、多くの人の足にあった形の靴を作っていく作業です。人間の足ってこういうものだなということがわかります。どちらも重要で、医学の発展には虫の目、鳥の目の両方の視点が重要だと考えています。

—— 臨床といえば、医療現場で疲弊している医療従事者のメンタルケアもなさっているとか。

今日の新型コロナウイルスの感染拡大で、特に重症患者を担当している医療従事者は達成感も少なく、メンタル面で大変しんどい思いをしている方もいらっしゃいます。患者さんのご

家族も含めてそうした方々のメンタルケアに、看護師や心理士らとチームを作って取り組んでいます。

—— そもそも、なぜ医師になろうと思われたのですか。

子どもの頃から「手に職を持つ」と親に言われ、弁護士か医師になろうと思いました。その中でどの国でも、どの時代にあっても必要とされ、尊敬される仕事だと考えて医師を選んだんです。

当初の消化器外科から精神科に転向したのは、目に見える病巣があるわけではなく得体が知れないからこそ重要な仕事だと思えたことと、昔から人の話をじっくり聞くことが好きだったことから自分に向いていると思いました。例えば、障害にしても義足をされていたり失明されていたりするのは外から見て、比較的わかりやすく理解されやすいですが、心を病んでいるのはわかりにくさゆえに偏見を持たれやすい。それは本人にしかわからない非常に辛いことなのです。

—— 休日のリフレッシュ法は?

わが家で飼っている豆柴との散歩ですね。すごくかわいいんです(笑)。あと、学生時代はラグビーをしていましたが、今はジョギングで身体を動かしています。オーストラリアに赴任中はメルボルンマラソンにも出場しました。米田教授お勤めのトレッキングランも練習しています。

—— 座右の銘を教えてください。

村上春樹さんの『走ることに就いて語る』の中に僕の話のことの中にあった「Pain is inevitable, suffering is optional. (痛みは避けられないが、それをどう感じるかは自分次第である)」ですね。同書は折に触れて、何度も読み返す一冊です。

—— 読書家でいらっしゃいますが、学生たちに薦めるとしたら?

医学生や医療者にはまず、ピューリッツァー賞受賞作の『がん—4000年の歴史』(シグダール・ムカジー著)がオススメです。「現代の医学が



Profile

金沢 徹文 Kanazawa Tetsufumi

- 2000年 大阪医科大学 卒業
同附属病院 一般消化器外科 入局
- 2002年 大阪医科大学病院 精神神経科 専攻医
- 2003年 新浜路病院勤務
- 2005年 米国カリフォルニア大学サンディエゴ校留学
- 2007年 小曽根病院勤務
- 2010年 大阪医科大学 神経精神医学教室 助教
- 2013年 大阪医科大学 神経精神医学教室 講師
- 2017年 豪州メルボルン大学 精神科 准教授
豪州ハワード・フローリー研究所
名誉准教授
- 2020年 大阪医科大学 神経精神医学教室 教授

どのような方法論で形作られているか」「エビデンスとは」といった、我々が当たり前のように話している内容の裏に隠された歴史を学ぶことができます。遺伝研究がたどってきた歴史をひもとく『遺伝子〜親愛なる人類史〜』も大作ですが、面白くて一気に読めます。尊敬すべき友人である池谷裕二先生の『単純な脳、複雑な「私」』や『進化しすぎた脳』もオススメです。—— 最後に、学生たちへのメッセージを。

学生の皆さんには「よく遊びなさい」と言いたいですね。私自身、出来のいい学生ではありませんでしたが、友人は年齢に関係なくたくさんいました。それは学生時代から学園祭の委員長を務めたりして、勉強以外のところで培った人脈です。そうしてよく遊び、交友関係を広げるなかで、私自身も仲間と共に笑いあったり傷付いたりしてきました。その上で、さまざまな価値観にふれることで逆に自分自身の確固たる価値観を持つことになったりしています。大人から見たらくだらないことに熱中できる時間を存分に楽しんで欲しいですね。

大阪医科大学 寄付事業活動について

寄付報告

2020年6月1日から2020年11月30日までの間にお申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。感謝の意を表します。また、本学法人寄付WEBサイトにもご芳名を掲げております。
※お名前の公表を希望されない方につきましては、掲載していません。

大阪医科大学創立100周年記念事業募金

募金目的	大学病院新本館建築に係る資金の一部、並びに学生支援体制の充実を図る
募金目標額	10億円
募集期間	2018年10月～2027年3月
金額	個人1口1万円、法人1口10万円
顕彰	銘板にご芳名をしるし、未永く顕彰いたします 個人様 5万円以上 法人・団体様 50万円以上
特典	個人様10万円以上、法人・団体様50万円以上をいただいた方は、健康科学クリニックの人間ドック・基本コース(47,300円)1回分の無料受診券を進呈します

- 植木 實 ●土岐 裕彦 ●久保田 サザ子 ●王 龍三 ●大東 清四 ●堂坂 忠弘 ●神谷 美佐子
- 新井 武夫 ●板倉 正 ●岩崎 勝義 ●大上 乃里子 ●大八木 圭介 ●鏡山 博行 ●國本 清 ●源久 忠仁
- 小泉 慶三 ●駒居 美佐子 ●小見山 淳子 ●鈴江 和枝 ●鈴木 真紀 ●角田 直人 ●田中 功 ●田中 源重
- 谷尻 仁 ●田端 章良 ●土居 文嗣 ●土居 宗算 ●中埜 肇 ●中山 サツキ ●西山 文雄 ●野村 行良
- 塙 憲一 ●馬場 道男 ●東尾 智美 ●藤阪 幸子 ●藤阪 保文 ●前田 秀樹 ●間利子 秀子 ●三本 登
- 宮本 勝治 ●森山 道夫 ●山本 聡 ●山本 茂 ●吉栖 正人 ●渡邊 めぐみ
- 医療法人毅峰会 吉田病院 ●株式会社エス・ビー・エム ●キャノンメディカルシステムズ株式会社
- コフジ物流株式会社 ●須賀工業株式会社大阪支社 ●野田建設株式会社 (順不同・敬称略)

一般ご寄付

- 渡邊 士乃武 ●吉田 龍太郎 ●吉田 眞子 ●大阪医科大学医学部PA会 ●シルバーアドバイザー高槻
- ネットワンシステムズ株式会社 (順不同・敬称略)

●税控除について

税額控除の場合

所得金額(年収)300万円の方が1万円を寄附した場合、
税率に関係なく、所得税額から3,200円が控除されます！



- 1.寄附者の所得金額(年収)を確認する
 - 2.所得金額(年収)から諸控除を引く(これを課税所得といいます)
 - 3.課税所得から税率を確認し、乗ずる(これが所得税額となります)
 - 4.所得税額から寄附にかかる税額控除(※)を引く(これが支払う税金の額になります)
- ※4の控除額の計算式は、「[寄附金額-2,000円(適用下限額)]×40%(控除率)」です。

所得控除の場合

所得金額(年収)300万円の方が1万円を寄附した場合、
400円が控除されます。



- 1.寄附者の所得金額(年収)を確認する
 - 2.所得金額(年収)から諸控除(※)を引く(これを課税所得といいます)
 - 3.課税所得から税率を確認し、乗ずる(これが所得税額になり、支払う税金の額になります)
- ※2の諸控除には寄附金控除も含まれており、「[寄附金額-2,000円(適用下限額)]×税率」が寄附金控除として所得金額(年収)から引かれています。

※文部科学省ホームページより

●個人住民税の取り扱い

寄附者様が個人の方で、お住まいの都道府県・市区町村が、条例で本学法人を寄付金税額控除の対象として指定している場合、総所得金額等の30%を上限とする寄附金額について、下記の通り翌年の個人住民税額から控除されます。

- ・都道府県が指定した寄附金 [寄附金額-2千円] × 4%に相当する額
- ・市区町村が指定した寄附金 [寄附金額-2千円] × 6%に相当する額

※都道府県・市区町村の双方が指定している場合、10%となります。

大阪医科大学基金

目的	本学の教育・研究の一層の充実やインフラ整備を図るため、財務基盤の強化に資する
募金目標額	50億円
金額	1口1万円
顕彰	銘板にご芳名をしるし、未永く顕彰いたします 個人様 5万円以上 法人・団体様 50万円以上

- 谷尻 仁 ●医療法人毅峰会 吉田病院 (敬称略)

教育環境整備のための募金

目的	医学部教育環境整備
募金目標額	2億円
募集期間	2020年4月1日～2021年3月31日
金額	1口300万円
顕彰	銘板にご芳名をしるし、未永く顕彰いたします

- 東 崇明 (敬称略)

【各種募金経過報告】2020年11月末日現在

募金名	件数	募金額(円)
大阪医科大学創立100周年記念事業募金	585	266,971,667
大阪医科大学基金	964	111,546,200
教育環境整備のための募金(※2020年度)	8	12,500,000

寄附者からのメッセージ

創立100周年記念事業募金には、患者の方々をはじめご寄付とともに病院スタッフへの感謝の気持ちが添えられています。

入院中は、特に看護師さんにはお世話になりました。優しい方が多く、本当に支えになってくださいました。
(70代女性)

最後の望みをかけて遠方よりお世話になりました。プロ集団の皆様方に感謝申し上げます。
(60代男性)

お世話になった母校へ些少ですがようやく恩返しができるようになりました。新病院が完成し、益々の発展を期待しております。
(医学部卒業生)



大阪医科大学創立100周年記念事業募金は
こちらよりお申し込みを受け付けています。

学校法人大阪医科大学寄付WEBサイト
<https://www.omp.ac.jp/donation/index.html>



研究助成金の内定・採択について (2020年12月14日現在)

【緊急助成】新型コロナウイルス感染症：4期助成

(公益財団法人 東京コミュニティー財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
院外心停止とCOVID-19の関連についての地域網羅的調査	新田 雅彦 (救急医学教室・講師)	350万円

令和2年度 医学研究助成

(公益財団法人 大阪難病研究財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
男性不妊の無精子症因子領域トランスジェニックマウスモデル解析	小村 和正 (泌尿器科学教室・講師)	100万円

令和2年度 医学研究助成

(公益財団法人 大阪難病研究財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
膵癌に対する新規局所治療の開発 -超音波内視鏡下温熱治療の基礎実験-	奥田 篤 (内科学II教室・助教(准))	100万円

令和2年度 医学研究助成

(公益財団法人 大阪難病研究財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
骨がんモデルマウスを用いたがん増殖とがん性疼痛の機序の解明	藤原 淳 (麻酔科学教室・助教)	50万円

地域保健福祉研究助成

(公益財団法人 大同生命厚生事業団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
関節リウマチ患者に対する個別処方速歩トレーニングの安全性および有用性の検討	東海 奈央 (リウマチ膠原病内科・非常勤講師)	50万円

2020年度(令和2年度)ビタミンB研究委員会 助成金

(ビタミンB研究委員会)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
ビタミンB研究活動	林 秀行 (化学教室・教授)	12.1万円

2020年度(令和2年度)ビタミンB研究委員会 助成金

(ビタミンB研究委員会)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
ビタミンB研究活動	生城 浩子 (生化学教室・講師)	10.9万円

令和元年度 研究奨励金

(公益財団法人 森永奉仕会)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
小児ネフローゼ症候群における栄養評価に関する基礎的研究	松村 英樹 (小児科学教室・助教)	45万円

2020年度 漢方医学教育研究助成

(一般財団法人 日本漢方医学教育振興財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
漢方医学に対する多職種連携教育システムの構築	駒澤 伸泰 (医学教育センター・講師(准))	150万円

令和2年度(2020年度) 癌研究助成

(公益財団法人 安田記念医学財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
固形がん臨床検体をもちいた化学放射線療法耐性の機序解明	小村 和正 (泌尿器科学教室・講師)	100万円

新型コロナウイルス感染症に関する研究

(同志社大学 赤ちゃん学研究センター)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
Web支援システム構築のための新型コロナウイルス感染症が乳幼児と親をとりまく育児環境の変化に及ぼす影響の実態調査	佐々木 綾子 (看護学部看護学科・教授)	40万円

2020年度 交通事故医療研究助成

(一般社団法人 日本損害保険協会)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)流行下の外傷初期診療の在り方ーSIRS-CoV-2 IgG抗体迅速検査を用いた感染対策ー	山川 一馬 (救急医学教室・准教授)	85万円

2020年 第3期 研究助成金

(アッヴィ合同会社)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
マウスの食餌誘発性脂肪性肝疾患による肝機能障害に対するの糖尿病治療薬の効果の比較検討について	福西 新弥 (先端医療開発学寄附講座・特別任命教員教授)	50万円

2020年 第3期 研究助成金

(アッヴィ合同会社)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
アルコール長期摂取過剰マウスの肝障害・易感染性に対する断酒効果の継続性	大濱 日出子 (内科学II教室・助教)	50万円

SBC研究助成制度 2020年度

(公益財団法人 SBC医学振興財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
高栄養環境下の脂肪変性のメカニズムを解明することで、肥満抑制因子を見出す—リンパ浮腫患者における脂肪線維化の観察—	塗 隆志 (形成外科学教室・診療准教授)	100万円

2014年度 ライフサイエンス研究奨励

(公益財団法人 武田科学振興財団)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
組織における三次元的な神経突起形成のダイナミクスと分子メカニズムの解析	藤島 和人 (解剖学教室・助教)	135.3万円

2020年度指定研究機関向研究助成金

(ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
関節リウマチ患者の軸椎螺子経路に生物学的製剤が及ぼす影響	根尾 昌志 (整形外科学教室・教授)	20万円

契約研究助成制度(2020年)

(エイエムオー・ジャパン株式会社)

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
タウ蛋白のリン酸化抑制による視神経障害に対する神経保護作用	奥 英弘 (眼科学教室・専門教授)	200万円

○研究推進課から応募申請しました公募助成金等のうち、内定・採択を確認できたもの、及び研究者より直接内定・採択の情報提供のあったものを掲載しています。

OMC NEWS

教育研修会開催報告

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、次の各教育研修会を動画配信にて開催いたしました。

これらの教育研修について未受講または受講期限が迫っている方は、必ず受講くださいますようお願いいたします。研究に係る各教育・研修の動画配信及び提出資料は、研究推進課ホームページに「映像コンテンツ配信」としてまとめております。受講される際は、ぜひご利用いただけますようお願いいたします。

研究推進課

公的研究費の不正使用防止のためのコンプライアンス教育研修会

この教育研修会は、公的研究費の不正使用等の防止のため制定された文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」において受講が求められています。今回ガイドラインに造詣が深いEY新日本有限責任監査法人宮本香先生を講師にお迎えし、「大学の先生が留意しないといけないコンプライアンス意識とは」と題して講演をいただき、動画配信を行っております。理解度確認シート(6割以上の正答)及び誓約書の提出をもって受講修了となります。受講日より3年後の年度末までが有効期間です。



研究倫理委員会・病院倫理委員会・臨床研究センター

臨床研究教育研修

人を対象とする医学系研究を行うためには、その指針に基づき、年1回の教育研修の受講が求められております。研究倫理・倫理審査に造詣が深い国立循環器病研究センターの湯元昇先生を講師にお迎えし、「研究倫理委員会とは—委員の立場から」と題し、倫理審査の視点や倫理的課題を解説いただきました。動画配信は2021年3月31日まで行っており、理解度確認テストの合格(6割以上の正答)をもって受講歴とし、2022年3月31日まで有効です。



病院ボランティアグループ

ふれあい

病院ボランティアグループ「ふれあい」は患者さん志向のヒューマンサービスを目指しています。

コロナ禍で規模を縮小して活動していますが「ふれあい」の皆さんへのお声掛けやご支援をお願いいたします。

患者サービス課ボランティア担当より

12種類の活動を展開

■正面玄関

- ・初診案内・患者さん誘導ボランティア

■病棟

- ・患者さん図書ボランティア(現在活動休止中)
- ・季節の飾りボランティア
- ・縫製ボランティア
- ・車椅子の空気圧定期点検ボランティア
- ・小児科病棟イベントボランティア(現在活動休止中)
(読み聞かせ、バルーンアート、ピアノ演奏会)

■その他

- ・エコキャップボランティア
- ・グリーンボランティア
- ・折り紙ボランティア
(入院患者さんへの行事食飾作成は現在休止中)
- ・通信ボランティア
- ・ふれあい作品展示コーナーへの展示
- ・古切手収集活動ボランティア



初診案内・患者さん誘導ボランティア



患者さん図書ボランティア



季節の飾りボランティア



季節の飾りボランティア



縫製ボランティア



エコキャップボランティア



グリーンボランティア



小児科病棟イベントボランティア



グリーンボランティア



高槻中・高だより

大阪医科大学との高大連携事業 「基礎医学講座」

「基礎医学講座」は、医学系大学への進学を志す生徒が、大学入学までに医学部医学科について深く理解し、進路に対する高い意識を持ち、医師の役割・使命、倫理観など医師としての素養を高める場となっています。例年全8講座を大学にて受講するところ、今年度は全6講座を本校にて対面授業でしていただきました。高校1・2年生の92名が学長名の修了証を授与されました。



令和2年度基礎医学講座

回数	実施日	担当教室	講師・テーマ
第1回	8月28日(金)	微生物学	中野 隆史 教授 「病原微生物との上手なつきあい方 ～感染制御の世界～」
第2回	9月4日(金)	病理学	廣瀬 善信 講師 「『がん』をみる」
第3回	9月11日(金)	法医学	齊藤 高志 助教 「遺体の中に 生きている細胞」
第4回	10月30日(金)	生理学	小野 富三人 教授 「神経 ～脳と世界をつなぐもの～」
第5回	11月6日(金)	薬理学	朝日 通雄 教授 「くすりは体に何を？」
第6回	11月13日(金)	生化学	福井 健二 助教 「DNAの傷と病気」

大阪薬科大学との高大連携事業 「基礎薬学講座」

「基礎薬学講座」は、キャリア意識を高めるとともに、薬学だけでなく科学全般を学ぶ意欲の向上や日頃の授業の重要性を認識する場として、中学2年生以上を対象としています。例年全5講座のところ今年度は全3講座とし、オンデマンド形式で開講しました。昨年度と合わせ4回以上受講した12名の生徒が学長名の修了証を授与されました。



令和2年度基礎薬学講座

回数	実施日	分野	講義担当者・テーマ
第1回	10月2日(金)	臨床	内田 まよこ 講師 (臨床薬学教育研究センター) 「薬剤師のごとく ～がん化学療法による 口内炎の副作用管理～」
第2回	10月16日(金)	製剤	門田 和紀 准教授 (製剤設計学研究室) 「粉と薬の身近な関係 ～薬は設計された粉だと 知っていますか?～」
第3回	10月26日(月)	化学・生物	藤森 功 教授 (病態生化学研究室) 「医薬品ができるまで ～痛み止めのアスピリンの開発～」

全国高校生フォーラムで生徒投票賞を受賞

文部科学省が実施しているスーパーグローバルハイスクール(SGH)事業及びWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業を受け、課題研究等に取り組んでいる高校生がオンラインにより一堂に会する2020年度全国高校生フォーラム(文部科学省・国立大学法人筑波大学主催)が令和2年12月に行われ、本校高校2年GAコース生の発表「The Three Stages Toward Reducing the Risk of Obesity in Palau」(パラオの肥満リスク低減に向けた3つのステージ)が生徒投票賞を受賞しました。



スーパーサイエンスハイスクール 生徒研究発表会でポスター発表賞を受賞

令和2年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会(文部科学省・国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)主催)が令和2年8月にオンラインで行われ、本校高校3年GSコース生徒3名の発表「プラスチックストローに代替する植物製ストローの作製と評価」がポスター発表賞を受賞しました。



2021年度 高槻中学校入学試験結果

A日程、英語選択型 1月16日

B日程 1月17日

(単位:人、倍)

	募集	志願者	受験者	合格者	倍率
A日程	180	571	527	238	2.2
男子	120	347	310	143	2.2
女子	60	224	217	95	2.3
B日程	90	1,253	1,035	396	2.6
男子	60	821	679	305	2.2
女子	30	432	356	91	3.9
英語選択型	若干名	34	31	14	2.2
合計	270	1,858	1,593	648	2.5
男子	180	1,185	1,005	453	2.2
女子	90	673	588	195	3.0



大阪薬大だより

オープンキャンパスを開催しました

2020年度は年4回のオープンキャンパス開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、6月21日、8月2日、8月23日の3回は中止を余儀なくされました。10月25日(日)のオープンキャンパスは事前予約制として開催し、午前・午後各30組60名限定のところ、57組95名の参加をいただきました。マスク着用や消毒等感染防止対策を行いながら実施しましたが、参加者からは教員や在学生から直接、学生生活の話聞くことができたこと高く評価されました。



新型コロナウイルス感染症拡大により、オープンキャンパスは参加者数限定での開催、体験型イベントの見送りなど、これまでの取り組みを見直しました。一方、新しい取り組みとして、Zoomアプリを用いた「Web進学相談会」、大学ホームページ上での「WEBオープンキャンパス」を実施しました。これらは非接触でコミュニケーションをとることができるだけでなく、遠方でも気軽に参加できるというメリットもありました。



2021年4月からは大阪薬科大学薬学部となりますが新型コロナウイルスが招いた新たな時代、新たな価値観に沿った入試広報活動を引き続き、検討し実施してまいります。

大阪薬科大学メモリアル 「大阪薬科大学の礎はこの街に ～大阪・道修町～」

2021年4月、大阪薬科大学は大阪医科大学と大学統合し、大阪薬科大学薬学部として新しくスタートを切ります。そこで、創立から今日までの大阪薬科大学116年の歴史について紹介します。

大阪薬科大学は、1904(明治37)年に大阪・道修町に創設された116年の伝統を誇る老舗薬科大学です。ちなみに、明治時代に創設された私立薬科大学は4つしかありません。

道修町といえば「くすりの街」として全国的に有名で、その昔は薬問屋が軒を連ね、現在でも多くの大手製薬会社が社屋を構えています。大阪薬科大学の前身である大阪道修薬学校は、当時の道修町3丁目の住民共有地の中にあつた町会所を借り受け、夜間男子校としてスタートを切りました。その場所は

学校と呼ぶには余りにも狭く、暗い場所であったようです。この場所は現在、塩野義製薬株式会社の敷地の一角にあたります。2004(平成16)年の本学創立100周年時には、記念事業の一環として「大阪薬科大学発祥の地」の記念碑を同社のご協力のもと玄関脇に建立し、この地に大阪薬科大学の前身である大阪道修薬学校が設置されたことを記しています。道修町の地に留まったのは4年という短い期間でしたが、大阪薬科大学の礎が「くすりの街・道修町」にあることを我々は誇りに思っています。



塩野義製薬玄関脇に建立した「大阪薬科大学発祥の地」の記念碑

「先人たちによって繋がれたご縁」

大阪医科大学の創始者である初代理事長の吉津度先生は、大阪薬学校(後の大阪大学薬学部)卒業後に独学で医師免許を取得されたと伺っています。大阪薬学校は1886(明治19)年に大阪市東区伏見町に売薬業有志によって設立され、翌1887(明治20)年に道修町に設立された大阪薬舗学校(のちに関西薬学校と名称変更)と合併して大阪共立薬学校と改め、その後移転を繰り返し、専門学校昇格を経て1949(昭和24)年に大阪大学附属となり、現在に至ります。1903(明治36)年頃から大阪薬学校の教室を夜間の空いた時間に利用した講習会が開かれていましたが、1904(明治37)年に大阪薬学校が上福島へ移転することとなったため、夜間講習会の講師の一人であった平山松治先生が道修町の町会所を借り受け、大阪道修薬学校(男子夜間課程)を設立したのが大阪薬科大学の始まりです。大阪薬学校がなければ大阪道修薬学校が誕生することはなく、今日の大阪薬科大学が存在することもなかったはずで

大阪薬科大学の創始者の平山先生と共に学校を支えた功労者に秋山卓爾先生がいます。秋山先生は大阪薬学校出身の薬剤師で、大阪道修薬学校が廃校の危機に直面した際、自ら校主となり私財を投げ打って経営難に対処し、日本初の女子薬学専門学校である「道修女子薬学専門学校」(のちに帝国女子薬学専門学校と名称変更)の設立を果たした人物です。吉津先生は「大阪医科大学50年史」によると明治27年に大阪薬学校修了とあります。一方、秋山先生は明治28年に卒業されています。

学年は違えども収容定員の少なかった時代、もしかしたらお二人は顔見知りであったかも知れないという楽しい想像を膨らませると、今回の大学統合は先人たちによって繋がれたご縁であるような気がしてなりません。

大阪・道修町の町会所から始まった大阪薬科大学が今春からは全国有数の医療系総合大学としてなお一層の飛躍を遂げることを心より願っています。



大阪医大のチームの一員である
各部署をご紹介します。

▶人事企画研修課
雇用促進チーム「フクシア」

私たちができること、
そのひとつひとつを通して、
共に法人の一員として、地域社会に貢献します!



雇用促進チーム（愛称：フクシア）は、就労意欲のある障がい者がそれぞれの能力や強みを活かして働くことができる場を提供すること、法定雇用率（2021年3月～2.3%に引き上げ）の維持を通じて、本法人が社会的責任を果たし地域・社会に貢献することを目的として、2020年1月に総務部人事企画研修課内に発足しました。

知的障がい者であるスタッフ3名とマネージャー（兼務）、リーダー、事務職員（兼務）という小さなチームで、環境美化業務と事務補助業務を行っています。大学及び病院の敷地周辺の歩道や通路のごみ拾い、総合研究棟ロビーや会議室の清掃・消毒をはじめとして、学内各部署からの依頼による、行事の配布物のセット、学内外への印刷物の封入・発送、紙書類のスキャンPDF化等、発足1年で業務の範囲が大きく広がりました。

最近では、新型コロナウイルス感染症対策として、共有スペース

の消毒や手指消毒液の補充も担当しています。

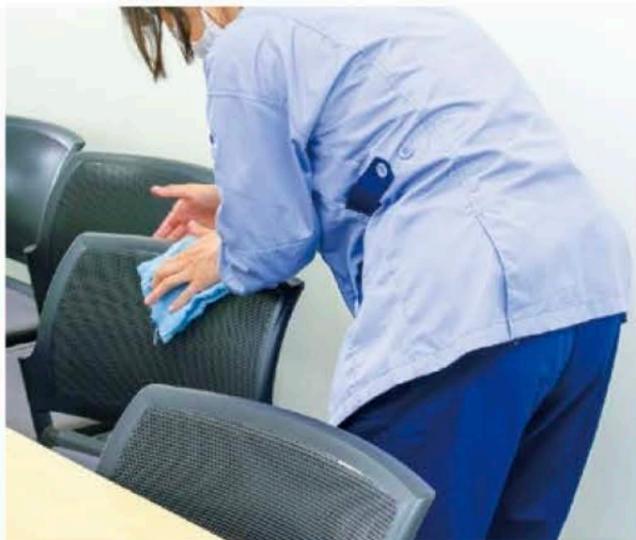
スタッフは、働く喜びとやりがいを感じながら、チームの一員として、社会の一員として、日々成長しています。

患者さん並びにご家族の皆さま、地域の方々、更には学生や教職員に気持ちよく過ごしていただくための環境整備をサポートすることで、本法人が果たす使命の一端を担えるよう、スタッフ一同業務に取り組んでいます。

「いつもきれいにしてくれてありがとうございます!」と労いの言葉をかけていただいたときは、働くことで喜んでくれる人がいると実感できる瞬間です。

医大内を歩けば、オレンジ色のベストを着けたスタッフが丁寧かつ熱心に清掃する姿に気付かれる方もいらっしゃると思います。

これからも、雇用促進チーム「フクシア」へご理解とご協力をいただければ幸いです。



水彩画と私

— ヤブタチバナ —

絵・文 名誉教授 富士原彰



ヤブタチバナ (ヤブコウジ科): 万両

お正月頃に赤い実をつけるヤブコウジ科の常緑木ヤブタチバナ (万両・百両・十両) の中で、最もよく枝分かれし、葉が茂り、実の色も深紅色で輝き、数が多い。万両は葉が左右に対称、実は葉の下側、ちなみにご存じの正月を彩る植物、千両はセンリョウ科、葉は互い違い、実は葉の上にある。

動・植物季節観測

つわぶきの黄色い花、紅葉が赤く色付き、そして散り、南天や千両の赤い実を鳥たちが啄み無くなるころ、庭一面雪に覆われ白くなる。そして、うめの花が芽吹きはじめ、うぐいすの初鳴きを聴く。白や桃色の馬酔木の花、香しい沈丁花の匂い。桜が散り、つじが咲き、やがて夏がきて、セミの初鳴きを聴く……。我が家の小さい庭でも、季節ごとの変化を感じ、日々、庭を眺めるだけで、動植物の状態が季節によって変化する様子を観察（気象庁・生物季節観測）できる。

古く（明治?）から気象庁は植物や動物の状態が季節によって変化する現象を観察し、生物に及ぼす気象の影響や季節の遅れ、進み、気象状況の推移を総合的に判断していくことを目的に、植物の観測は、うめ、さくら等17種の開花時期、動物の観測では、うぐいすの初鳴き、ホタルの初見やひぐらしの初鳴きなど10種を対象に生物季節観測を行ってきた。ところが、昨年、気象庁はこの生物季節観測を見直すことと報告し、11月10日に動物季節観測を完全廃止を決定した。その理由は、環境の変化により、都市化の進んだ地域では、対象の動植物を見つけるのが困難となり、結果にばらつきが出るからだという。

観測できないことを確認するのも、気候変動や温暖化等を知るうえで必要な事ではないのか。残念でならない。私の周辺でも、荒れ果てた休耕地が増え、高速道路の開通に伴う新興住宅の造成により、短期間に目まぐるしく激変する自然環境の変化は、身近な動植物の姿にも変化をもたらし、季節ごとの風情がだんだん失われていることに悲しみを覚える。いま庭には、万両の低木に深紅色の赤い輝きのある実がたわわに垂れ下がっている。



大阪医科大学
OSAKA MEDICAL COLLEGE

大阪医科大学

<https://www.osaka-med.ac.jp>

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

TEL:072-683-1221(代表)

【学部】

- 医学部医学科
- 看護学部看護学科

【大学院】

- 医学研究科(医科学専攻修士課程)
- 医学研究科(医学専攻博士課程)
- 看護学研究科(看護学専攻[博士前期課程])
- 看護学研究科(看護学専攻[博士後期課程])

大阪薬科大学 <https://www.oups.ac.jp>

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原4丁目20番1号 TEL:072-690-1000(代表)

【学部】 ●薬学部薬学科(6年制) ●薬学部薬科学科(4年制)

【大学院】 ●薬学研究科(薬学専攻[博士課程・4年制])
●薬学研究科(薬科学専攻[博士前期課程・2年制])
●薬学研究科(薬科学専攻[博士後期課程・3年制])

高槻中学校・高槻高等学校 <https://www.takatsuki.ed.jp>

〒569-8505 大阪府高槻市沢良木町2番5号 TEL:072-671-0001(代表)

【6年制完全一貫教育】 ●中学校:《GLコース》(1年・2年・3年)《GSコース》《GAコース》(3年)
●高等学校:全日制課程普通科《GLコース》《GSコース》《GAコース》

【文部科学省指定】 ●スーパーサイエンスハイスクール(SSH)
●スーパーグローバルハイスクール(SGH)